

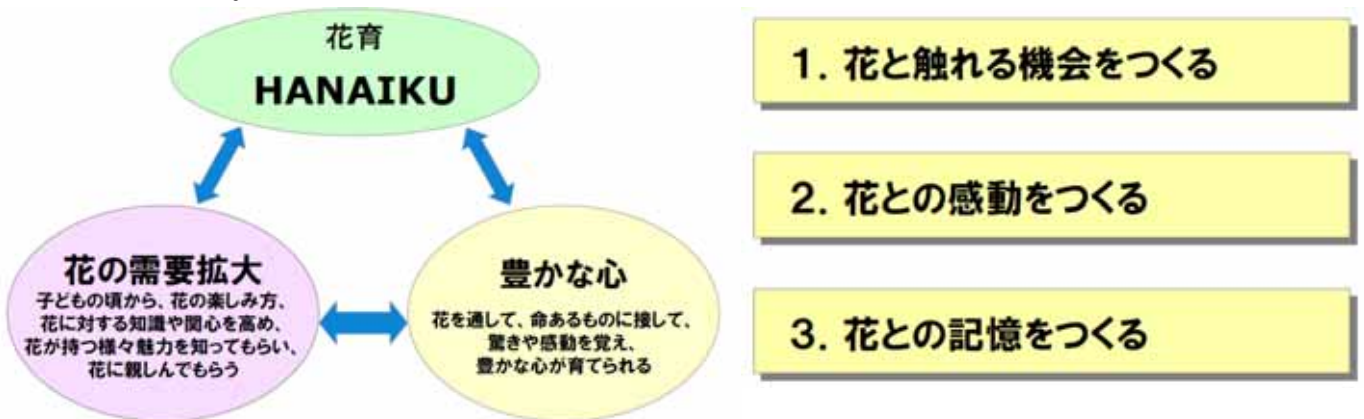
# 地域における花育活動の実践マニュアル

(フローレ21が考える母子を対象とした「HANA IKU」活動より)

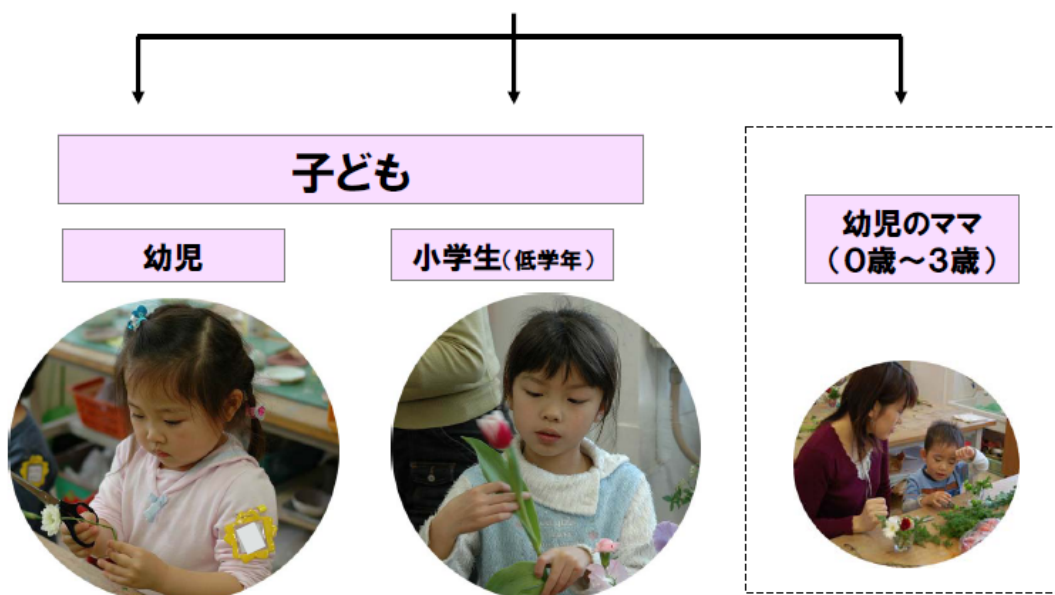
## 1 これまでの「HANA IKU」活動の概要

庭がある家庭が少なくなり、庭で花を育てたり、食卓に花を飾る習慣が少なくなってきた昨今。花に触れる機会が少なくなっている現在の子供達に、花に触れるきっかけをつくる事が今必要となってきました。

フローレ21の「HANA IKU」の目的はより多くの子供達に花に触れる機会をつくり、花を通して心豊かな子供に育ててほしいという願いです。さらに、育児に負われている幼児のママにもこの「HANA IKU」を通して、花に触れる事により、心に余裕ができ、豊かな心で子供に接する事ができるのではないかと考えています。また、「HANA IKU」を行う事で、将来の花の消費者になってくれる事を願い活動をしています。



HANA IKUを通して、親子で一緒に体験することで、興味を持ち、考えるきっかけとなり、花が家族のコミュニケーションツールとなる



2006年10月から花育活動を始めて、1年が過ぎました。  
現在、品川区の児童センターで、幼児・小学生（低学年）・幼児のママを対象に毎月活動を行っています。

## ●実施回数

**54回**（2006年10月～2008年3月28末現在）

幼児・小学生 = 29回

お母さん = 24回

先生向け = 1回

## ●実施場所

児童館 3館（品川区）

小学校 1校（先生向け 豊島区）

イベント 2回（品川区エコフェスタ）

## ●参加人数

**960人**（2006年10月～2008年3月28末現在）

幼児・小学生 = 590人

お母さん = 350人

先生 = 20人

フローレ21の「HANA IKU」は、必ず季節の花を使用し、準備した花の説明をした後、花を自由に選び、あえて見本を作らないで自由にアレンジをするスタイルです。見本を作ると、それにいかに近づけるかをつい競ってしまい、ストレスになるからです。私達の目的はフラワーアレンジの上達ではありません。花に触れる機会をつくり、花を見て楽しみ、感触を楽しみ、匂いを楽しみ、花を通して色々な事を伝え、花を身近に感じてほしいのです。

花器は家にある物を利用し、花器を作るところから始まります。自由に花材を選び、自由にアレンジを行うので、同じ物は一つもありません。私達が教えるのは切り方や、挿し方など、ごくごく基本的なことだけです。そして、完成したら、必ず「良くできたね」、「どの花が一番好き？」などと語りかけることで、強く印象づけるようにしています。

また、アレンジに使った花の名前や今日の感想を「HANA IKUノート」に書き込み、自宅に持ち帰ってもらいます。書くことで、花の名前を覚えてもらえる事と、家に帰って家族とのコミュニケーションツールになるからです。

「HANA IKU」を通して、花に触れる機会をもっとつくり、たくさん子ども達に「HANA IKU」を体験してもらえよう、日々活動しています。

1. 私たちはフラワーアレンジを教えるのではなく、花を通していろいろなことを伝える。(家にある物を利用して花器を作るところから始める)

2. サンプルを用意せず、花を自由に選び、自由にアレンジを行う。

3. 花を選ぶ楽しさ、花の扱い方を知ってもらう為、6～10種類の花材を用意する。\*花材はその花の自然な姿を見せたいので、下葉処理やトゲ取り等はして行きません。(水上げ処理のみ)

4. 必ず季節の花を使用する。

5. 花の品種名・特徴・扱い方・生産地等について説明を行う。

6. 茎の切り方、挿し方、花器についての説明を行う。

7. “HANAIKUノート”を用意。(記憶に残す)

自分の選んだ花の名前を覚えてもらう為。また、家族とのコミュニケーションツールとして。

8. 必ず感想を聞く(アレンジのイメージ・どの花が気に入ったか等を一人ずつ発表・聞いてみる)

## 2 母子を対象とすることで工夫・配慮したこと

家にある物で簡単に花を飾る事ができることという事を知ってもらう為、花をアレンジするだけではなく、家にあるちょっとした物を工夫・利用して花器を作ること。

カリキュラム時間は30分～60分内で行える内容にしています。

### 生花

自宅にある物等を利用して、  
簡単アレンジを行う方法を教える。  
(ペットボトル・タマゴパック・空き瓶など)



花は簡単にアレンジできる！

### 押し花

生花だけではなく、花を押して、  
長く楽しめる方法を教える。  
(押した花で小物などを作成する)



花を身近に感じてもらう！

### 3 フラワーアレンジの実施に当たって、事前に準備したり、母子に対して注意、配慮したこと

事前準備はほとんどありません。あえて準備をせず、準備からレッスンのスタートとするスタイルをとっています。

注意している事は、工作をするので、カッターやハサミ等の使い方などを主に注意しています。

また、幼児（3～5歳）の場合はお母さんと一緒ではなく、あえて、お母さん達には別の部屋で待っててもらいます。なぜならば、お母さんと一緒だと、お母さんが手を出してしまい、子ども達が作った作品にならないからです。子どもが自分で「考える」こと、初めから最後まで自分で作った「達成感」「喜び」を感じて欲しいからです。

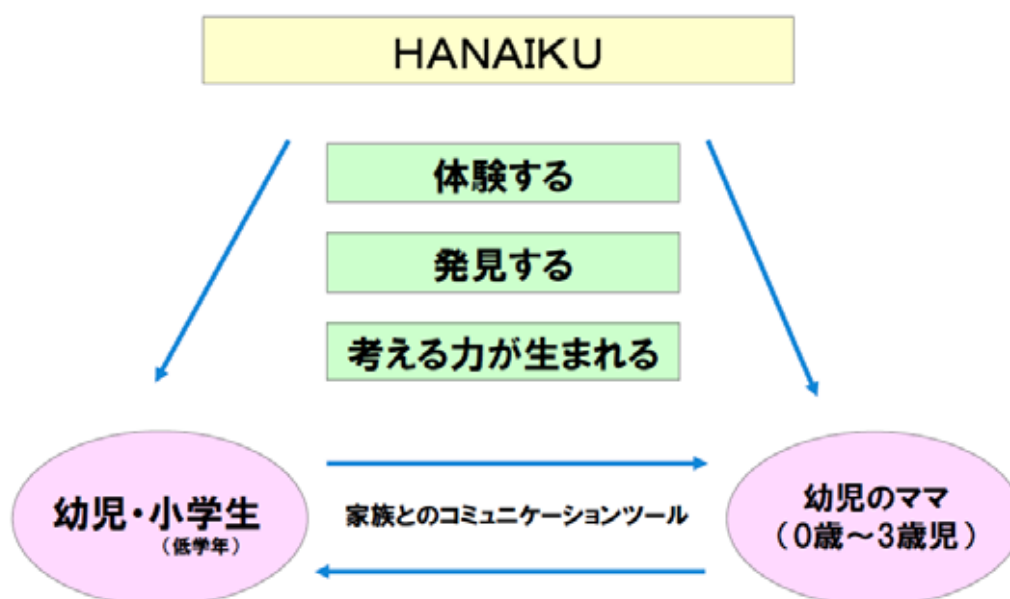
### 4 母子の花育への取り組み姿勢や教育的効果に関すること

幼児のお母さん達に花育を行う際、子ども達は隣に座って、お母さんのやっているところを見ていたり、花を触ってみたり、茎を切ってみたり、挿してみたり、様々です。親子で一緒に体験することで、興味を持ち、考えるきっかけとなり、花を通して家族のコミュニケーションが生まれます。

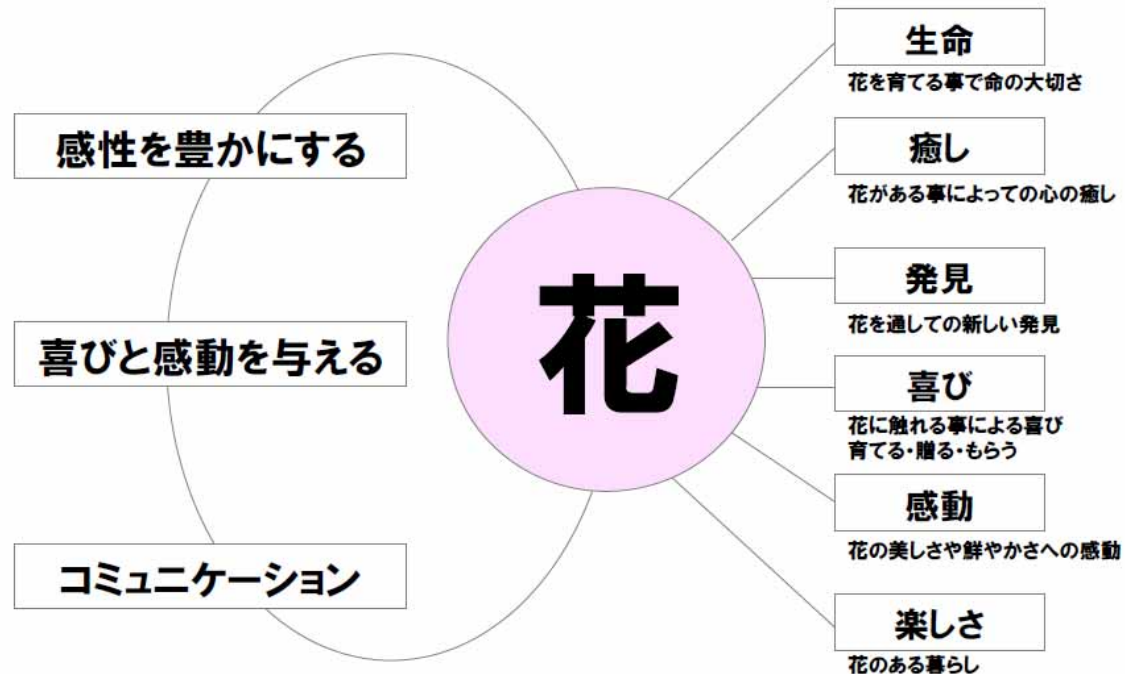
カリキュラム内容はあえて、母と子どもは同じ内容で行っています。同じ体験をする事で、親子で同じ感動を一緒に分かち合ってもらいたいからです。

花は毎日変化します。自分の目で確かめ、違いを見つけた時に、「なぜ?」「どうして?」といった考えを引きだすことができます。

私達が行っている「HANA IKU」活動は必ず季節の花を使用します。それは、花に触れることで、季節感を感じてもらいたいからです。そして、自由に花を選び、アレンジを行うので、子ども達は、大人が思いつかないようなアイデアを出し、花と向き合っています。その場にある物を組み合わせる事で、自分で考え、価値を生み出し、自信を持つことができるようになるのです。



## 花が人間にもたらす効果



備フローレ21

### 5 外部の行政機関との連携や指導・支援を受け入れる場合、この効果や問題等

行政機関との連携を取ることで、「花育」をもっと多くの親御さんや子ども達に知ってもらえることができます。

「花育」を行う上で重要なことは、指導する側が「花育」を理解し、子ども達とちゃんと向き合える人が集まって活動することです。

そうした指導者を育成することで、「花育」がさらに広がるのではないかと考えます。